

解答はすべて解答用紙に書きましょう。

問題 1

ようこさんは、先生と話しているゆうじさんの姿を見かけました。近づいてみると「小学校を卒業しても、先生のことはわすれない。ありがとう。」と言っているゆうじさんの言葉が聞こえました。

敬語には、「ていねいな言い方(ていねい語)」と「尊敬の言い方(尊敬語)」と「けんじょうの言い方(けんじょう語)」の3つがあるということを思い出したようこさんは、ゆうじさんの言葉づかいが気になりました。

そこで、次の文章をゆうじさんに紹介し、読んでもらうことにしました。これを読んで、あとの問い(1)～(3)に答えましょう。

それほど親しくない人からは、尊敬語やけんじょう語でなくてもかまわないので、せめて「です」「ます」を使ったていねいな言葉で話しかけられたいと思います。

学校では、年上の人や目上の人には敬語を使いましょうと教えられます。うやまうべき相手には、それにふさわしい言葉で話すというのは大切なことですが、私は敬語というのは、まず相手とどれだけ親しいかによって、使い分けるべきだと思います。

あまり親しくない人と会うときは、なにはともあれ、ていねいな言葉を使うようにしましょう。相手がどんな立場の人であっても、よほど親しくなるまでは、「です」「ます」を使ってていねいに話すべきです。

年上の人には、ていねい語で話しましょう。使いなれないとよそよそしく感じられるかもしれませんが、相手を尊敬して、ていねいな言葉を自然に使って話せるようになると、大人になって社会に出たときに役に立ちます。

ていねいな言葉を使わないでなれなれしく話すと、自分は親しさを表しているつもりでも、相手はバカにされたと感じることがあるものです。品格のある大人になるために、相手に不快感を与えない話し方を身につけておきたいものです。

また、友だちなどに対しても、親しいからといって、あまりにもくだけすぎた言葉で話すのは、まわりで聞いている人にとっても聞き苦しいものです。「親しき仲にも礼儀あり」です。

(坂東眞理子著『大人になる前に身につけてほしいこと』〔出版社：PHP研究所〕から)

(1) ようこさんから紹介された文章を読んだゆうじさんは、もう一度、先生に自分の気持ちを伝えるために、言い直すことにしました。次の言葉を「ていねいな言い方(ていねい語)」に直しましょう。

先生のことはわすれない。ありがとう。

(2) ゆうじさんは、ようこさんと次のような会話をしました。ア、イのそれぞれに当てはまる言葉を書きましょう。

ゆうじ：紹介してくれた文章は、敬語について書いてあるね。例えば、「行く」という言葉を尊敬の言い方に直すと、どうなるのかな。

ようこ：そうね。例えば、「先生はもう教室に行かれましたか。」というように、「行かれる」という言い方になるね。

ゆうじ：ぼくは、「行く」の尊敬の言い方で、「ア」という言葉を聞いたことがあるよ。

ようこ：「ア」は、その場に「居る」という言葉の尊敬の言い方にもなるよ。

ゆうじ：そういう敬語を正しく使えるといいね。

ようこ：ところで、「食べる」の尊敬の言い方は「めし上がる」だけど、けんじょうの言い方は、どうだったかな。

ゆうじ：それはね、「イ」と言うんだよ。

ようこ：すごい。ゆうじさんは、よく知っているね。

ゆうじ：知っているだけではなくて、日ごろから使えるようにしておくよ。

(3) ゆうじさんは、ようこさんから紹介された文章を読んで、「親しき仲にも礼儀あり」という言葉が心に残ったので、そのことについて書き残しておくことにしました。親しいと思う相手に対しても礼儀正しい話し方をすべき2つの理由を、ようこさんが紹介した文章中の表現を使い、100字程度(少し多くても少なくてもかまわない)にまとめて書きましょう。

注意

1行目の1マス目から書き始めてください。段落を設けずに続けて書きましょう。

書き終えたあと、つけ加えたり、けずったりしてもかまいません。そのときは全部消して書き直す必要はありません。次の例のように直しましょう。

(例)

目標					続ける														
ま	た	,	今	ま	で	に	し	て	き	た	こ	と	を	生	か	す	こ	と	で

問題 2

ひかりさんの学級では、国語の時間に、各自がニュース等で気になる言葉について調べたことを新聞にまとめ、学級の友だちや家族、^{ちいき}地域の人に知らせる活動に取り組みました。

ひかりさんは、「^{しょうしこうれいか}少子高齢化」という言葉をニュースで何度か聞き、関心をもっていたので、山口県における^{ねんれい}年齢別人口の割合^{わりあい}について調べ、新聞にまとめることにしました。

図1は、ひかりさんが考えた新聞のわり付け、図2は、山口県における^{ねんれい}年齢（3区分）別人口の割合^{わりあい}を、平成元年、平成11年、平成21年のそれぞれについて、ひかりさんがグラフに表したものです。あとの問い（1）～（3）に答えましょう。

図1 新聞のわり付け

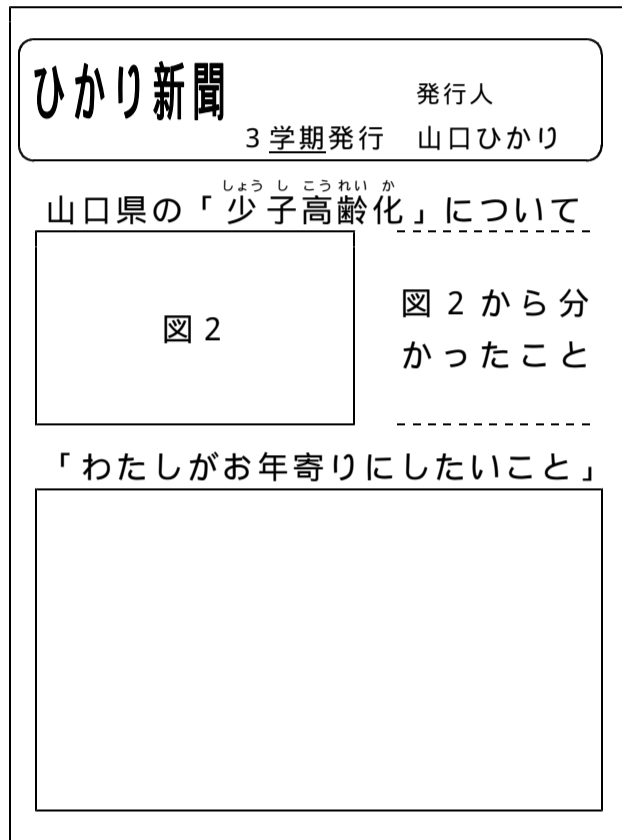
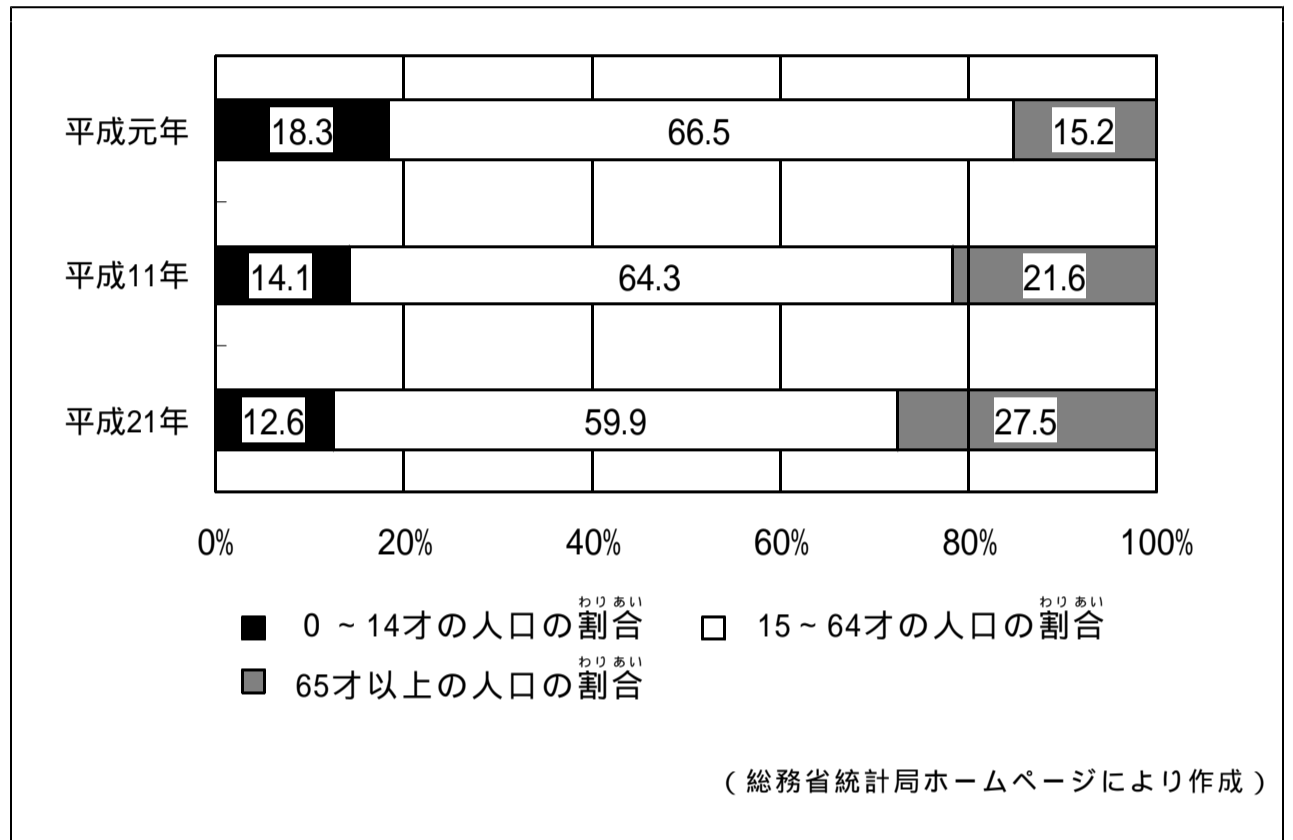


図2 山口県における^{ねんれい}年齢（3区分）別人口の割合^{わりあい}



(1) ひかりさんは、図1の「ひかり新聞 3学期発行 発行人 山口ひかり」の部分をパソコンを使って作成することにし、ローマ字のキーを使って文字を入力しました。「学期」をローマ字で書きましょう。

(2) ひかりさんは、「山口県の『^{しょうしこうれいか}少子高齢化』について」の記事を書くことにしました。図2の「0～14才の人口の割合」から分かることと、「65才以上の人口の割合」から分かることを、それぞれ1つずつ書きましょう。

(3) ひかりさんは、自分たちが、お年寄りとどうかかわっていけばよいかについての記事を書くために、^{ちいき}地域のお年寄りに、「子どもたちとかかわる中でどんなときが楽しいですか。」とインタビューをしました。図3は、そのときのメモです。インタビューを終えて、ひかりさんは、記事の見出しを「わたしがお年寄りにしたいこと」としました。あなたなら、この見出しに合う記事をどのように書きますか。図3のインタビューのメモを参考にして、200字程度（少し多くても少なくてもかまわない）で書きましょう。書き方は、問題 1の(3)にある注意にならしましょう。

図3 インタビューのメモ

